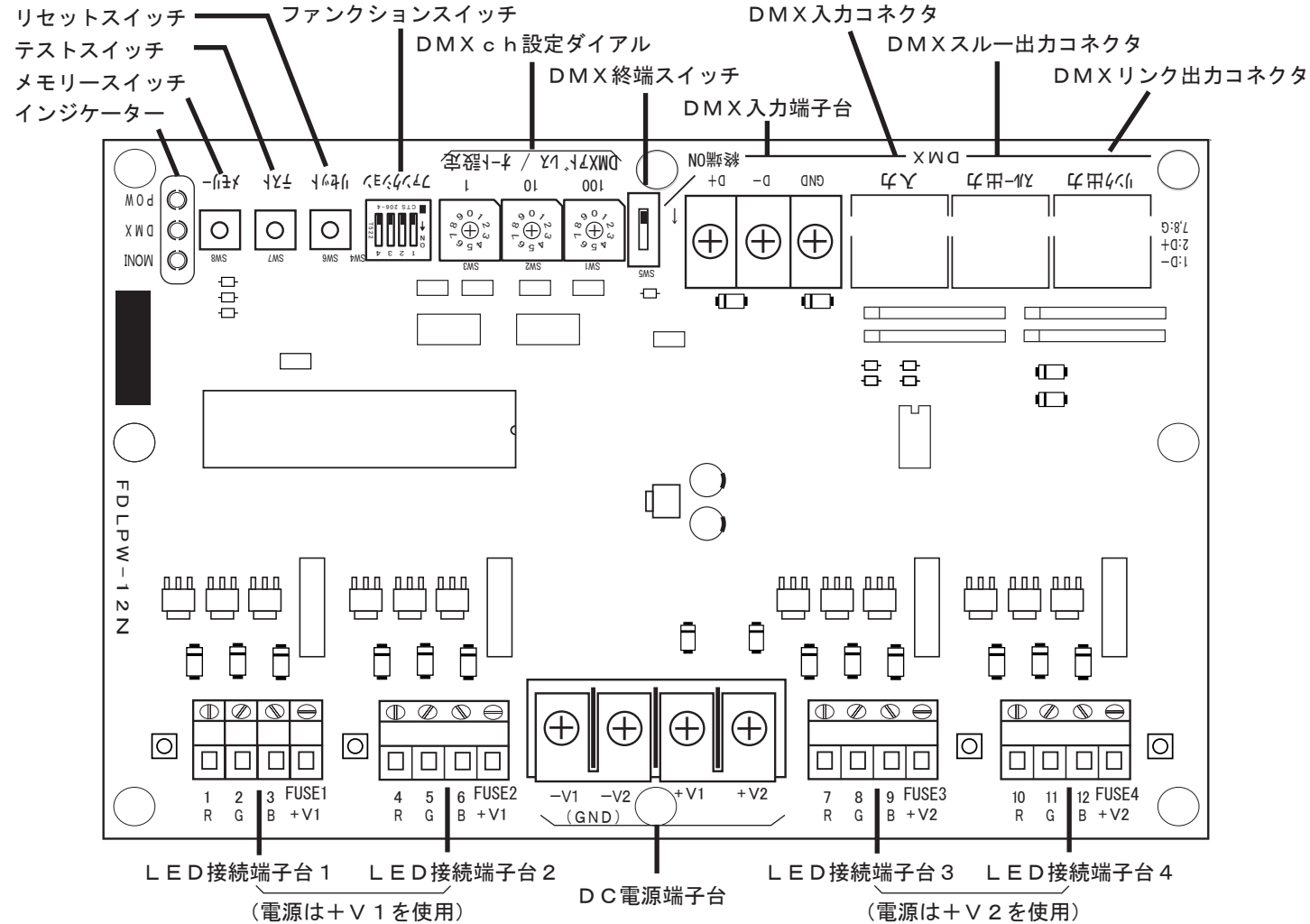


# 12ch LED調光制御基板 FDLPW-12N

12ch LED調光制御基板FDLPW-12Nは、DMX信号で12回路のLED照明を調光制御するための基板です。従来の製品から改良されて、より安全性が高く、故障しにくい設計になりました。RGBのフルカラータイプの器具ならば、4系統の制御が可能です。調光方式はPWM（パルス制御）方式です。接続できるLED照明器具は、8V~24Vの電源に直結して使用できる器具で、器具側に点滅・調光等のコントローラーが内蔵されていない器具です。1回路当たり2Aの電流容量があります。複数の器具の片側の線が共通で配線されている場合は、+側が共通配線されている（+コモン）器具のみ使用可能です。DMX信号のスタートchを設定し、スタートchから12chを使用して調光します。また、DMX信号を使用しないで、基板のみで点滅やグラデーション調光も行うことができます。新たに固定色モードが追加され、ダイヤルの設定で固定色を出すことが出来るようになりました。

## 各部の名称と機能



- DMX入力端子台：DMX信号を入力する端子台です。電線から直接入力する場合に使用します。DMXのGND、D-、D+ の各信号を表示の通り接続してください。
- DMX入力コネクタ：DMX信号をLANケーブルを使って入力する場合に使用します。使用ピン番号は以下のとおりです。  
1：D- 2：D+ 7, 8：GND
- DMXスルー出力コネクタ：入力されたDMX信号をそのまま出力します。
- DMXリンク出力コネクタ：入力されたDMX信号を受信した後、バッファを通して出力します。次の機器まで距離がある時に使用してください。ただし本基板の電源が切れると、信号は伝送されなくなります。
- DMX終端スイッチ：この基板で、DMX信号の接続が終端になるときにONにします。DMXリンク出力コネクタだけから次の機器に接続する場合もONにします。
- DMX ch設定ダイヤル：本基板で使用するDMX chを設定します。ダイヤルで設定したchがLED接続端子台1の1番に対応します。
- ファンクションスイッチ：本基板の動作を変更するためのスイッチです。詳しい設定方法は使用方法の項で説明します。
- リセットスイッチ：基板を再起動するためのスイッチです。DMX ch設定やファンクションスイッチを変更したときには再起動する必要があります。
- テストスイッチ：基板の出力をテストするためのスイッチです。
- メモリースイッチ：入力中のDMX信号を1シーンだけ記憶するためのスイッチです。
- インジケータ：POW=電源ONで点灯します。DMX=DMX信号が入力されると点灯します。MONI=テストモードの時とメモリースイッチが押されて記憶動作中に点滅します。

## 使用方法

- 電源の接続  
LED器具の仕様に合ったDC電源（8V~24V）を用意し、DC電源端子台に接続します。通常は1台の電源で使用しますが、1台では容量が不足する場合は2台接続することもできます。下図の通り、極性に注意して接続してください。  

電源1台の場合  
端子台のショート金具をつけたまま接続

電源2台の場合  
端子台の+側のショート金具をはずして接続

電源1 出力番号1~6に供給  
電源2 出力番号7~12に供給
- LED器具の接続  
下図の通り、器具の極性に注意して接続します。端子台ネジを十分にゆるめてから、金属の差込口に電線を差し込み、ネジを締め付けてください。被覆をむく長さは8mm程度です。+Vの各端子には安全のためヒューズが設けられています。点灯しない時は、対応するヒューズを確認してください。万一ヒューズ切れの場合は、自動車用ブレードヒューズ15Aを自動車用品店等で購入してください。  

RGB配線 (+共通)

RGB配線 (-共通)

RGB個別配線 または個別器具

一側を各端子へ  
+側はまとめて+端子へ

— 共通配線は接続できません
- 出力テスト  
電源および器具の接続が終了したら、必要に応じて出力テストを行います。テストスイッチを3秒押すと、MONIインジケータが点滅してテストモードに入ります。テストスイッチを押すごとに順次器具が点灯します。テストを終了するときにはリセットスイッチを押してください。各出力には、短絡および過電流に対する保護機能があります。特定の出力が点灯しない場合は、器具の配線・容量を点検して、問題がなければ電源を入れ直してください。
- DMX信号の接続およびch設定  
DMX信号はDMX入力端子台またはDMX入力コネクタを使用して入力します。配線を直接接続する場合は端子台、LANケーブルを使用する場合はコネクタに接続します。DMX信号を次の器具に送るには、端子台を使用する時は、出力線を一緒にネジ止めします。コネクタを使用する時は、次の機器が近い場合はスルー出力コネクタ、遠い（おおむね10m以上）場合リンク出力コネクタを使用します。DMX信号を次に送らない場合と、リンク出力コネクタだけを使用する場合は、DMX終端スイッチをONにします。信号の接続が終了したら、DMX chを設定します。この基板で使用する先頭のchを3ケタのダイヤルで設定します。設定後はリセットスイッチを押してください。
- ファンクション設定

SW番号	OFF	ON
1	通常設定	出力 1, 2, 3と4, 5, 6 7, 8, 9と10, 11, 12 が同じ
2	SW1に依存	出力 1, 2, 3 4, 5, 6 7, 8, 9 10, 11, 12 がすべて同じ
3	DMX信号無しで出力維持	DMX信号無しでメモリー再生
4	通常設定	固定色モード、ダイヤルで各色の明るさを設定
- メモリー記憶  
DMX信号入力中にメモリースイッチを3秒間押すと、MONIインジケータが早い点滅をしてから点灯に変わります。これで入力信号がメモリーされます。上記ファンクションスイッチ3がONで、DMX信号が切れたときに再生されます。メモリーを記憶していないときは消灯します。
- DMX信号無しでの使用  
DMX信号を使用せずに、基板単独で点滅器や固定色再生機として使用することができます。DMX ch設定ダイヤルの100の位を6または7にあわせませ。6は点滅、7はグラデーションです。10の位でパターン選択 1の位でスピード選択になります。設定後はリセットスイッチを押してください。ファンクションスイッチ4番をONにすると、ダイヤル設定により固定色が出力されます。